

「人文知」コレギウム 実施状況一覧

(※発表者の専門分野及び職名は、発表当時のものです。)

| | テーマ | 発表者 | 開催日 |
|------|--|---|------------|
| 第1回 | 富山、「病い」の未来を切り拓く ・富山県における高次脳機能障害支援の展開と社会学 ・ダーク・ツーリズムの視角からみた観光地富山の可能性 | 伊藤 智樹 (社会学・准教授) 鈴木 晃志郎 (人文地理学・准教授) | 2017.06.28 |
| 第2回 | 映像とことば、「客観性」という幻想 ・アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ ・学習辞典における重要語とは？ | 赤尾 千波 (アメリカ文学・教授) 黒田 廉 (ドイツ語学・教授) | 2017.08.23 |
| 第3回 | 時の彼方から蘇るモノ、そして人 ・出土仮名文字資料の研究 ・東洋史事始—内藤湖南と桑原隲蔵— | 鈴木 景二 (日本史・教授) 徳永 洋介 (東洋史・教授) | 2017.09.27 |
| 第4回 | 人と社会の病理—近代ヨーロッパの思想と文学の知見から— ・西欧近代思想のなかの精神病理—カントの理性批判をめぐって— ・犯罪を人文学する—フランス言語文化からのアプローチ— | 澤田 哲生 (人間学・准教授) 梅澤 礼 (ヨーロッパ言語文化・准教授) | 2017.11.22 |
| 第5回 | 富山、地域性を彩る祭りのことば ・富山の祭りの魅力を考える：福野夜高祭を事例にして ・敬語：そのバリエーションと富山県方言 | 藤本 武 (文化人類学・教授) 中井 精一 (日本語学・教授) | 2018.01.31 |
| 第6回 | 漢字、その深遠なる世界へのいざない ・甲骨文も言語である ・漢文訓読研究のコペルニクスの転回 | 森賀 一恵 (中国語学・教授) 小助川 貞次 (日本語学・教授) | 2018.03.20 |
| 第7回 | 文学研究の最前線 ・『古事記』と「八雲」 ・芥川龍之介、自殺前の苦悩とは | 中島 淑恵 (フランス文学・教授) 小谷 瑛輔 (日本文学・准教授) | 2018.04.18 |
| 第8回 | 迷宮のなかに秩序と規範を求めて ・「連続体の迷宮」とは何か—ライブニッツとパースが挑んだ哲学最大の難問— ・ルールとは何か—行為規範の規範性を、論理的強制力として描き出す— | 池田 真治 (哲学・人間学・准教授) 佐藤 裕 (社会学・教授) | 2018.06.20 |
| 第9回 | フランスと日本—それぞれの過去から学ぶこと— ・フランス右翼ナショナリズムの論理構造—Ch・モラスが設定したふたつの「敵」— ・宇治十帖前半とアンドレ・ジッド『狭き門』 | 南 祐三 (西洋史・准教授) 田村 俊介 (日本文学・教授) | 2018.09.05 |
| 第10回 | 中澤敦夫教授 ドミートリイ・リハチョフ賞 受賞記念講演 ・文献と図像から読み解く、ロシア人の伝統的『あの世』観 | 中澤 敦夫 (ロシア文学・教授) | 2018.10.24 |

| | テーマ | 発表者 | 開催日 |
|------|---|---|---------------------------|
| 第11回 | 人と人、人と社会 ・韓国のLGBTコミュニティをとりまく現状—プライド・イベントの現場から見えてくるもの— ・アメリカにおける福祉政策と市民の境界線—生殖をめぐるポリティクス— | 林 夏生 (国際関係論・准教授) 小野 直子 (アメリカ文化論・教授) | 2018. 12. 05 |
| 第12回 | 地域で育む、地域を育む ・子どもの生活空間とまちづくり—楽しく失敗できるまちに向けて— ・「〇〇語らしさ」の音声学 | 大西 宏治 (人文地理学・教授) 安藤 智子 (音声学・音韻論・准教授) | 2019. 01. 30 |
| 第13回 | ・マルチモーダル・ミュージッキング—米国黒人教会における音楽する身体— ・「人間の安全保障」から見たヒトの移動—中米の場合— | 野澤 豊一 (文化人類学・准教授) 竹村 卓 (国際関係論・教授) | 2019. 07. 31 |
| 第14回 | ・スウェーデン兵の従軍記録にみる大北方戦争 (1700~21年) ・人工知能の社会学 | 入江 幸二 (西洋史・准教授) 佐藤 裕 (社会学・教授) | 2019. 09. 25 |
| 第15回 | ・聖者と政治—中央アジア東部の近世史— ・ウィリアム・シェイクスピアへのジェイムズ・ジョイスの敵対—『ハムレット』の改作を中心に— | 澤田 稔 (東洋史・教授) 結城 史郎 (イギリス文学・准教授) | 2019. 10. 23 |
| 第16回 | ・名詞句階層から見る英語とコリヤーク語—異質性の陰に潜む普遍性— ・基底核を発動する連体修飾の構造 | 呉人 恵 (言語学・教授) 藤川 勝也 (英語学・准教授) 樋野 幸男 (日本語学・教授) | 2019. 11. 20 |
| 第17回 | ・心理療法における即時的改善—トークセラピーの限界を超えて— ・時間の実在性と心の活動について—アリストテレス時間論からの考察— | 喜田 裕子 (心理学・教授) 永井 龍男 (哲学・教授) | 2020. 01. 29 |
| 第18回 | 梅澤礼准教授 洪沢・クローデル賞 受賞記念講演会 ・囚人と狂気—19世紀フランスの監獄・文学・社会 | 梅澤 礼 (フランス文学・准教授) | 2020. 02. 07 |
| 第19回 | 特別シンポジウム「感染症と人文学」 ・1709-13年のペストとスウェーデン ・近代フランス社会と感染症：ウィズ・コレラからアフター・コレラへ ・20世紀初頭アメリカにおける感染症と公衆衛生：『腸チフスのメアリー』の記憶 ・ラフカティオ・ハーンと感染症②：『コレラの時代に』考 ・パンデミックと現代文学：20世紀ディストピア小説をふりかえる | 入江幸二 (西洋史・准教授) 梅澤礼 (フランス文学・准教授) 小野直子 (西洋史・教授) 中島淑恵 (フランス文学・教授) 武田昭文 (ロシア文学・教授) | 2020. 11. 07 (オンライン開催) |
| 第20回 | 日本語の世界 ・南米日系人の日本語と日本文化—世代間継承に注目して— ・ミンナ解ケテル準体方程式から、ある種の主節動詞に起因する準体構造の形式化 | 中井精一 (日本語学・教授) 樋野幸男 (日本語学・教授) | 2020. 11. 18 (オンライン開催) |

| | テーマ | 発表者 | 開催日 |
|------|--|---|-------------------------|
| 第21回 | コロナ特別企画① ・ COVID-19をめぐるボランティアな地理情報 (VGI) の最前線 | 鈴木 晃志郎 (人文地理学・准教授) | 2020.12.16 (オンライン開催) |
| 第22回 | コロナ特別企画② ・ 感染症とセクシュアリティの二重スティグマ化— COVID-19下の韓国LGBTQコミュニティに起きたこと— ・ 新型コロナウイルスがもたらす心理 | 林 夏生 (国際関係論・准教授) 黒川 光流 (心理学・准教授) | 2021.02.03 (オンライン開催) |
| 第23回 | 国家建設を考える ・ 未承認国家とディアスポラ—ロンドンの『ソマリランド・ディアスポラ』の動向— | 須永 修枝 (国際関係論・特命助教) | 2021.03.10 (オンライン開催) |
| 第24回 | 文献からみる日本の文学と歴史 ・ 嚙本における表記・表現の特質 ・ 〈承久の乱〉の歴史像 | 藤井 史果 (日本文学・講師) 長村 祥知 (日本史・講師) | 2021.06.30 (オンライン開催) |
| 第25回 | 多様な翻訳の世界～ドイツ語を手がかりに～ ・ 犯罪捜査の言語学～「白バラ」のピラを例に～ ・ 翻訳を通じた言語対照研究 | 阿部 美規 (ドイツ言語文化・准教授) 宮内 伸子 (ドイツ言語文化・教授) | 2021.10.20 (オンライン開催) |
| 第26回 | 心理学の世界 ・ ワーキングメモリ：現在の記憶 ・ 離婚後の親子関係を考える | 坪見 博之 (心理学・准教授) 直原 康光 (心理学・講師) | 2021.11.24 (オンライン開催) |
| 第27回 | 心理学の世界 ・ 心理的ストレスモデルからみた青少年の“コロナ禍” ・ 「気分を良くしたければポジティブ思考に！」という誤解：認知行動療法の観点から | 飯島 有哉 (心理学・講師) 重松 潤 (心理学・講師) | 2021.12.22 (オンライン開催) |
| 第28回 | —いま、語り伝えたいこと— ・ 天鷲絨の哀愁—富山県入善町出身の歌手・津村謙の生涯 ・ ユダヤ系アメリカ文学、ホロコースト | 齊藤 大紀 (中国文学・教授) 秋田 万里子 (アメリカ文学・講師) | 2022.01.26 (オンライン開催) |
| 第29回 | —東アジアの言語を探究する— ・ 朝鮮語の處格と屬格をめぐって ・ 文法形式の成立から見る日本語の変化 | 上保 敏 (言語学・准教授) 川島 拓馬 (日本語学・講師) | 2022.06.29 |
| 第30回 | —東アジアの歴史と思想— ・ 唐帝国の軍事と北衛禁軍 ・ 「生成」する者としての人間 —貝原「生成」する者としての人間 —貝原益軒 (1630-1704) の思想をもとに— | 林 美希 (東洋史・講師) 田畑 真美 (人間学・教授) | 2022.07.27 |
| 第31回 | ・ 杉谷4号墳の調査意義と築造背景 ・ 「鎌倉殿」と歴史学 | 高橋 浩二 (考古学・教授) 長村 祥知 (日本史・講師) | 2022.09.28 |

| | テーマ | 発表者 | 開催日 |
|------|--|--|--------------|
| 第32回 | —20世紀が遺した問い：朝鮮半島とロシアの思想と文学から— ・朝鮮半島38度線以北における文学的表現 ・「作者と主人公」の存在論 —バフチンの小説理論の汎用性を考える— | 和田 とも美 (朝鮮言語文化・准教授) 武田 昭文 (ロシア言語文化・教授) | 2022. 10. 19 |
| 第33回 | —書物が語る 遺物が語る— ・帝亡(ほろ)びて風雅在り —近代富山の漢詩人・岡崎藍田(らんでん)が見た中国— ・絵馬はいつから? —出土絵馬の研究と初期の絵馬— | 大野 圭介 (中国文学・教授) 次山 淳 (考古学・教授) | 2022. 11. 22 |
| 第34回 | —言語を探究する— ・気づかない方言文末詞に気づくとき ・音注は意味を教えてくれる | 安藤 智子 (言語学・教授) 森賀 一恵 (言語学・教授) | 2023. 06. 28 |
| 第35回 | 源氏物語の注釈書 ・源氏物語注釈史管見 —『源氏釈』からネット時代の校注書迄— | 田村 俊介 (日本文学・教授) | 2023. 11. 15 |
| 第36回 | 社会学・人文地理学で考える ・自己を語るまでの道のり —難病患者の就労を例に— ・地理空間情報を通じて可視化する小学生の登下校 —富山市の子どもを見守る地域連携事業— | 伊藤 智樹 (社会学・教授) 大西 宏治 (人文地理学・教授) | 2024. 03. 06 |
| 第37回 | ラフカディオ・ハーンとフランス文学 —ヘルン文庫の研究資源としての活用の一例として— | 中島 淑恵 (フランス言語文化・教授) | 2024. 05. 22 |
| 第38回 | ・近代俳句研究における地方俳誌の可能性 —明治30年代の日本派を中心に— ・トランスパシフィックにおける知識生成 —19世紀アメリカ文学と「カテゴリー化できない日本人」— | 田部 知季 (日本文学・准教授) 笠根 唯 (アメリカ言語文化・講師) | 2024. 06. 19 |
| 第39回 | ・不登校支援におけるチーム学校の協働性を地域ぐるみで活性化する取り組み —〈立山町見守りシステム〉10年間の実践報告— ・大規模言語モデルと言葉の意味理解 | 喜田 裕子 (心理学・教授) 次田 瞬 (哲学・講師) | 2024. 11. 20 |
| 第40回 | ・うらみとストーキングの心理学 ・「自分が自分である」という感覚はどのように生じるか? | 鈴木 拓朗 (心理学・講師) 佐藤 徳 (心理学・教授) | 2024. 11. 28 |
| 第41回 | ・祭りへのまなざし再考 —獅子舞から考える「不足」と「余白」 ・生きた芸能を記述する —獅子舞のエコロジーに向けて | 田邊 元 (スポーツ人類学(芸文)・講師) 野澤 豊一 (文化人類学・准教授) | 2024. 11. 29 |